

助産雑誌 Back Number

★バックナンバーの取り扱いについて

- ①2014年4月号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL: 03-3817-5666)にて承ります。
 - ②それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記へお願いいたします。
- 株式会社東亜ブック
〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11
TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539

2016年3月号



特集

遺伝カウンセラーとは異なる 出生前検査における助産師の役割

2012年にいわゆる新型出生前診断(NIPT)の開始が報道され、社会と医療現場は混乱をきたしました。現在でも、カウンセリングを含めた体制整備が十分ではない状況です。遺伝カウンセラーとはまた別の、身近な相談者としての助産師の役割を考えます。

2016年2月号



特集

新生児の疾患とその徴候 見逃してはいけない異常徴候

出生直後の入院中に助産師が感じた「なんとなく具合が悪そう……」という印象が、新生児を疾患から救う第一歩になります。何らかの兆しに気づくことで、高次施設へつなぐ時期が早まるかもしれません。異常徴候を見逃さない、観察のポイントを解説します。

2016年1月号



特集

70巻記念号 『助産雑誌』と私の歩み

1952年の創刊から64年。多くの方々に支えられ70巻を迎えることができました。その記念に、小誌に縁の深い方々に、小誌とのかわりや、思い出をつづっていただきました。助産師の過去、そしてこれから訪れる未来に、思いを馳せた特集です。

2015年12月号



特集

バースレビューの心得

日本で広く行なわれているバースレビュー。助産師とともにお産をふりかえり、自身の体験を語りたい褥婦がいる一方で、それによって傷つく褥婦も存在します。本特集では、事例とエビデンスをもとに、助産師がバースレビューに取り組む際の心得を再考しました。

2015年11月号



特集

新しい視点で 保健指導を変えよう！

現在の保健指導は19年前の厚生省局長通知に基づいていますが、当時とは妊婦や家族の抱える課題が変化してきているため、見直しの必要性が出てきました。「親になること」と「いのちに向き合うこと」を支援する、新しい視点を取り入れた保健指導を特集しました。

2015年10月号



特集

「特定妊婦」にどうかかわる？ 助産師ができる支援とは

出産後の養育について、出産前からの支援が特に必要な「特定妊婦」。本特集では、その概念と必要な対応、助産師による実際の支援の様子を紹介しました。妊娠期から、医療機関が保健・福祉と連携して支援することで、児童虐待の防止にもつながります。

2015年 特集

- 9月号 効果的な実習指導をしよう！ 学校とともに学生を支援する
- 8月号 妊娠高血圧症候群 2015 知識と支援をアップデートしよう！
- 7月号 助産師が専門職としてかわるべき母乳育児支援 「寄り添う」とはどうすることか
- 6月号 地域でつくる妊娠から育児までの切れ目ない支援 今、注目の日本版ネウボラとは
- 5月号 女性が主体的に産むための助産ケア
- 4月号 産婦の身体の声をしる アセスメント能力を高めよう
- 3月号 ペリネイタル・ロスのケアを考える